

平成27年7月2日

会員各位

美しい多摩川フォーラム事務局

平成27年度 第1回 地域経済活性化部会

◆ 7月2日(木)、美しい多摩川フォーラムの平成27年 第1回 地域経済活性化部会が開催されました。概要は下記のとおりです。

- ・開催日時：平成27年7月2日(木) 15時～16時半
- ・開催場所：立川グランドホテル 3F サンマルコ
- ・出席者：部会長、副部会長、運営委員、会員等

◎ 教育文化・環境清流合同部会の概要

1. 開会
2. 部会長挨拶
3. 講話(40分)
(テーマ)「エコツーリズムと環境保全ー地域発展の基本視点」
(講師) 藪田 雅弘 部会長(中央大学経済学部教授)
4. 経過報告 ※はビデオ放映
 - (1) 平成27年度事業計画・同予算&実施内容(5/30 総会配布資料)【資料1】
 - (2) 多摩川夢の桜街道～桜の札所巡り事業(桜ウォーキング)【資料2】
 - ①4/2：羽村取水堰と玉川上水～美しい多摩川フォーラム、羽村市、福生市、リビング多摩、大谷桜守
 - ②4/7：南浅川桜並木と陵南公園&高尾・多摩森林科学園～美しい多摩川フォーラム、京王電鉄、リビング多摩、大谷桜守
 - (3) 東北・夢の桜街道～桜の札所巡り事業(東北・夢の桜街道推進協議会)【資料3】
5/1：第4回“美しき桜心の物語”の語り会(八十八番・弘前公園、青森県弘前文化センター～語り部・平野啓子副会長)
 - (4) 多摩川“水”大学講座(5/22、6/19)【資料4】
 - (5) 東急百貨店「ココエコチャリティー」実施(5/28～)【資料5】
 - (6) 平成27年度総会開催(5/30)
 - (7) 調布市環境フェア出展(6/6)【資料6】
 - (8) 第8回多摩川一斉水質調査実施(6/7)【資料7】
 - (9) 美しい多摩川フォーラムの森(青梅)下刈りイベント(7/4)

- (10) 多摩川っ子 (第8号) 発行 (7月上旬)
- (11) 多摩川 “水” 大学講座 (7/17、9/18)
- (12) 狛江古代カップ第25回多摩川いかだレース参加 (7/19) 【資料8】
- (13) 「東北・夢の桜街道推進協議会」平成27年度総会開催 (7/22 青森県)
- (14) 第8回子どもカヤック体験教室開催 (7/25) 【資料9】
- (15) 多摩川1万人の清掃大会参加 (8/2)
- (16) 第7回炭焼き体験と水辺の交流会開催 (8/21) 【資料10】
- (17) 第3回大人のカヤック体験教室開催 (8/29) 【資料11】
- (18) “多摩川酒蔵街道” のPRについて (9/1～) 【資料12】
- (19) 第2回美しい多摩川フォト教室開催 (9/18) 【資料13】

5. 意見交換

- (1) 平成27年度活動計画等について 【資料1】
- (2) その他

6. 部会長総括

7. 閉会

1. 開会 (初参加者紹介および資料確認)

(事務局)

定刻になりましたので、美しい多摩川フォーラム平成27年度第1回地域経済活性化部会を始めさせて頂きたいと思っております。始めに当フォーラムのテーマソングである「多摩川の歌」の普及策の一環として、本日はボサノヴァ・バージョンをお聞き下さい……。それでは、本日はじめて部会にご出席される方をご紹介します。

(公益財団法人東京市町村自治調査会 事業部 企画課

企画係主事兼研究員 沓川 剛 様)

沓川と申します。先週の部会では、村松と幡野が出席させていただきました。私は4月に異動してきたばかりですが、見聞を広げるため本日出席させていただきました。よろしく願いいたします。

(富国生命保険相互会社 顧問 大場 豊明 様)

大場と申します。私は大田区に生まれ、小さいころから多摩川で遊び、桜の下で母が作った弁当を食べた経験もあります。先般お話を伺い、美しい多摩川と桜をコモンズとして地域経済を発展させ、更に拡がりのある永遠の事業であると感銘を受け、事務局長に無理を言って本日オブザーバーで参加させていただきました。富国生命では、東北・夢の桜街道でも参加させていただいております。会社をあげて頑張りますので、よろしく願いいたします。

(事務局)

有り難うございました。本日は、5月30日のフォーラム総会において新たに地域経済活性化部会長にご就任された藪田部会長にご挨拶をよろしく申し上げます。

2. 部会長挨拶

(藪田部会長)

皆さん、本日はようこそお越しいただき、有り難うございます。地域活性化部会は、多摩川の様々な観光資源を生かし、どうやったら人々が楽しく、子どもたちに良い環境が残せるかという活動だろうと思います。私も活動の趣旨に賛同し、何かできないかと考えていたところ、部会長のお話がありました。精一杯務めさせていただきますので、皆さんからもどんどん意見を出していただきたいと思います。観光地は、どれだけアイデアが出せるかという勝負でもありますから、皆さんのお知恵を借りながら、活動を続けていきたいと思っています。よろしく願いいたします。

(事務局)

有り難うございました。続いて、新たに地域経済活性化副部会長に就任された堤運営委員にご挨拶をよろしく申し上げます。

(堤副部会長)

皆さまこんにちは、堤でございます。このフォーラム設立時から関わらせていただいておりますが、今回副部会長に任命されました。他の部会に出席されている方はご存じだと思いますが、それぞれの部会がテーマに掲げているものをキープックとして、美しい多摩川100年プランを目指し、今生きている私たちがどのように知恵と時間を使っていくかということです。経済は非常に面白いですし、色々な可能性を秘めています。この会が、ブレストという場であれば良いと思っておりますので、正解を導き出すというよりは、皆さんがそれぞれの立場で、想いと具体的な方法をお話していくことで、部会の意義があるだろうと思いますので、概念論ではなく、具体的なアクションプランの部会になるよう、微力ではございますが、副部会長を務めさせていただきますので、よろしく願いいたします。

3. 講 話

(事務局)

さて、先般の当部会の開催通知でご案内したとおり、本日は、中央大学経済学部教授で、公共政策論、観光政策論、環境政策論等がご専門の藪田部会長から、「エコツーリズムと環境保全ー地域発展の基本視点」と題するご講話をいただきます。多摩地域の現状認識や問題意識を高めていただけたら有り難いと存じます。

間もなく前方のスクリーンに パワーポイントの画像が映し出されます。

それでは、藪田部会長、よろしく願いいたします。

(藪田部会長)

僭越ながら私から少しお話をさせていただきます。以前学生と一緒に、「エコツーリズム」と「グリーンツーリズム」、「地球温暖化」という言葉を並べてアンケートしたところ、「エコツーリズム」の認知度が低い事が分かりました。そのため、これからは、「エコツーリズム」という言葉をどんどん広めていきたいと考えていますので、今日はこのようなテーマにさせていただきました。

宣伝ではありませんが、この5月と6月に、私が関係している本が2冊出版されました。ひとつは岩波書店の「グローバル社会は持続可能か」で、第6章「エコツーリズムと環境保全」を執筆いたしました。もうひとつは、「ベーシック応用経済学」で、第16章を書かせていただきました。もし宜しければお買い上げください。今日は主に3つ話をさせていただきます。

1. 観光ブームと期待

何故か日本人は、「世界遺産」とか「日本遺産」、「世界農業遺産」などの権威に弱いです。富士山も、世界遺産になったから立派だと捉えがちです。我々日本人は、「世界遺産」に踊らされる傾向があります。私はオーストラリアに2年間住んでおりましたが、オーストラリアにも「世界遺産」はありますが、オーストラリア人は動じないです。「世界遺産」になったから観光客を呼び寄せようという考えはなく、自分が良いと思ったものは良いという考え、ブランドに踊らされない信念のようなものがあります。楽しいことは有名ではなくてもやる。人が行かないから行く。こういった人たちの事を、経済学者は「スナップ」と呼びます。逆に、人が行くから行くという人のことを「バンドワゴン」と言います。どうも日本人は、観光について「バンドワゴン」の傾向があるようです。特に初期の観光発展段階では、そういった過程をたどります。

さて、旅行先で必要な要素は何でしょうか。名所や名産物がある、宿泊施設が充実している等がありますが、そもそも休みや予算が無いと旅行には行けません。日本人は、年間で最大2泊くらいしかしていません。この船の名前はわかりますか？「観光丸」と言います。我々がツーリズムを「観光」と言い始めたのは戦後です。観光＝光を観る＝非日常的な物を観ることに観光の良さがあります。第二次世界大戦後、日本人の心は疲弊し、物資も足らない中、貿易するにもお金がありません。そのため外国人に来てもらおうということになりました。戦争で大打撃を受けなかった都市は、京都・奈良・静岡県や神奈川県温泉街でした。昭和25年頃、こういった特定の地域の法律を作り、国際観光都市として発展させよ

うと試みしました。その後、国が観光基本法を作りました。現在でも生きている観光基本法は、観光立国推進基本法と言われる2007年の法律、「地域における創意工夫を生かした主体的な取組みを尊重しつつ、地域の住民が誇りと愛着を持つことのできる活力に満ちた地域社会の持続可能な発展を通じて国内外からの観光旅行を促進することが、将来にわたる豊かな国民生活の実現のため特に重要である」という認識のもと、制定されました。まさに我々の活動と一致していますし、東京都の様々な試みやオリンピックも、この延長線上にあるのではないかと思います。ですから、国を挙げてというよりは、地域を挙げて観光を発展させることが重要です。外国人は、「日本に行きたい」のではないのです。日本の「どこか」に行きたいのです。ですから、そういう意味では地域はとても重要です。東京の様々な情報発信を行うことによって、沢山ある観光資源、地域資源を再発見することができます。それは恐らく、観光客に対してというよりは、我々の気付きに関係するのではないかと思います。一昨年、学生を連れて石垣島の調査に行ってきました。その時、石垣島の観光課の人たちに言われたのは、外からやってきた人の意見は重要である、とのことでした。例えば、満天の空を眺めた時、地元の人、いつも見ている満天の空に価値があると思わないのです。ところが、初めて来た人たちは、素晴らしいと感動します。石垣島には天文台があるので、それと組み合わせる星を観察するようなツアーを計画してはどうかというアイデアが生まれました。我々は、地域を外から見る必要があると思います。いつも暮らしていると、多摩の良さは“たま”にしか分かりません。

1987年にリゾート法を制定しましたが、その後大きな問題を残し、政府も問題であったと認めています。この法律自体は生きています。1994年にはグリーンツーリズム法、2008年にはエコツーリズム推進法が出来ました。これは議員立法ですが、地域がエコツーリズムを推進するためのものです。特に文化や教育の重要性を認めています。この法律を批判する人もいますが、私はむしろこれを積極的に展開することが重要ではないかと思っております。

今や時代はエコツーリズムです。何故このようなことを言うかということ、先ほどの個別法に加え、1992年にはリオデジャネイロで地球サミットが開催されました。これは、地球温暖化の対策と、生物多様性の対策を初めて決めた会議です。それから10年後、「リオ10（テン）」と言いますが、2002年は、国際エコツーリズム年として定められ、その後様々な展開が行われています。日本では、先ほども申し上げました通り、2008年にエコツーリズム推進法が制定されました。こういった意味では、エコツーリズムは極めて重要であるということです。頭の片隅に入れておいてください。

何故観光ブームは期待されるのでしょうか。日本の温泉は大変有名で、少し古いデータですが、国内の温泉数は2万7千、温泉を有するホテルは1万5千件に

もなります。しかし、高度成長期やバブル経済（1986～91年）で発展していった温泉旅行者の推移は、1990年代以降停滞しています。この原因は、余暇が進まなかったことにあります。オーストラリアでは、休暇を4週間まとめて取りなさいと言われます。従業員が休暇を取得しなかった場合、企業は従業員が辞める時にお金に換算しなければなりません。ですから、企業はなんとか休暇を取得させようと努力します。これを安部政権が了解してくれれば、日本の旅行業界は潤うと思います。しかし、景気が良くなると我々の労働時間は増えてしまいます。

国内旅行者の推移ですが、訪日外国人数は2014年から15年と増えてきており、1500万人は行くだらうと言われています。2000年頃は500万人くらいで推移していました。円安の効果は大きいです。日本が魅力をどんどん発信しているということもあります。いわゆるゴールデンルートだけではなく、ドラゴンルートや九州のサザンクロスなど、色々な努力があつて増えています。ただやはり、日本人自身が日本を楽しまなければなりません。

では、旅行でどれくらい消費しているのでしょうか。国内旅行消費額は、23兆7790億円と言われています。海外旅行をする前に、国内で買った額も含まれます。おおよそ25兆円です。よく「観光産業」と言う人がいますが、観光に産業はありません。旅行会社はサービス業です。宿泊費はホテルですから宿泊業です。そういった産業はありますが、観光業という産業はありません。例えば、カメラを買った時、旅行のために使うのか、自分のために使うのかは分かりません。そういったことを細分しています。旅行消費が我が国にもたらす経済波及効果は、生産波及効果として約51兆円、雇用効果は430万人となります。これを地域で見るとどうでしょう。これは、平成20年における、東北地方の観光の実態ですが、宮城県での旅行消費額は5660億円、対県内生産額は6%です。一方沖縄は、有名な観光地ですから、比率は13.5%と高いです。東北地方における観光の位置を考えると、農業、漁業、製造業と比較しますと、結構大きいです。東北は温泉が多いので、まだまだ頑張ってもらいたいです。震災直後に開催された東北6大祭りを見てみると、かなりの観光客を呼び込んでいます。全体では1718億円の効果がありました。楽天イーグルスの生産波及効果は195億円なので、約10倍の効果があります。ですから、祭りや温泉などの観光を発展させる要素は大きいといえます。

地域資源としては、何と言っても世界遺産です。1972年に世界遺産条約ができ、日本は1993年頃から徐々に指定個所が増えて行きました。最近は、無形文化遺産に関する条約もでき、2013年には和食が登録されました。私にも知らない登録文化があるものです。地域的で、局所的で、かなりの伝統があるものというのは、発掘すると、我々の知らないところにけっこうあることが分かり

ます。地元にいるとなかなか気付けないので、他の人に気付いてもらう必要もあるのかなと思います。日本の世界遺産は、1993年登録の法隆寺に始まります。当初は、アジアの文化財が登録されるのか心配でした。何故なら、ほとんど燃えているからです。そのため、文化的景観という考えを導入し、作り替えられたものでも、ちゃんとした設計図に基づいて建築され、維持出来ていれば良いということになり、ヨーロッパの石の文化に対し、木の文化も登録されるようになりました。富士山が登録された年、鎌倉も申請したのですが、不採択になりました。学生と鎌倉を調査した際、我々も不採択になる可能性があると思いました。それは武家の文化で、北条家の跡はあるのですが、設計図が残っていないのです。再現できないので、神聖性が保たれません。しかし、鎌倉は武家の文化を伝統として残していることは事実です。問題は富士山です。来年の2月に返事をしないといけません。登録の際、いくつかクレームが出ました。イコモスは三保の松原を入れてはいけないと提言しました。しかし遺産委員会は、それを入れて登録してしまいました。残された課題は、人工物その他の景観を保たなければならないということ、何と云っても問題なのは、富士山への登山者が多すぎるということです。そのことによって富士山の外壁が崩れているというのです。外壁が崩れないようにコンクリートで固めるわけにもいきませんから、極めて重要な問題です。2010年、ガラパゴスは一旦登録から外れましたが、政府が色々と努力し、すぐに復帰になりました。富士山も心配です。2016年2月に報告書を提出することになっているので、それまでに何か手を打たなければなりません。

最近、日本遺産が世間を騒がしています。これは世界遺産とは違い、文化遺産の価値付けが目的ではなく、保護するための規制等も目的ではなく、遺産を基として、活用し発信することで、地域の活性化を図ることを目的としています。良く知られているのは、四国のお遍路さんや、加賀前田家ゆかりの町民文化が花咲くまち高岡で、少し趣旨が違います。我々が行っている活動は、価値を認めてもらおうというのではなく、価値を認めた地域の人が地域活性化を図るので、日本遺産そのものの活動に近いのかなと思います。

2. 観光発展の問題

昨年、私は白神山地の4市町村をまわってインタビューをしてきました。ここはお客さんが少なすぎて、地域がなかなか活性化しないそうです。これについて、青森県と秋田県の考え方は違い、秋田県は、世界遺産を保全することが重要で、あまり観光客を入れたくないと思っています。一方青森県は、観光開発をしてもっとお客さんに来てほしいと思っています。逆に屋久島は、キャリングキャパシティを超えています。同じ世界遺産でも、価値を活かせていない地域もあれば、他方でキャリングキャパシティを超えている地域もあります。我々は気をつけな

ければなりません。2007年には石見銀山を調査しました。街づくりの一環で、自動販売機をこのような形で覆い隠し、昔ながらの景観を維持するように統一感を出しています。また、花がたむけられていて、おもてなしを感じます。観光客が多いので、パーク&ライドを推進していますが、課題も多いとのこと。世界遺産登録年の前と後を比較すると、登録後は一時的に観光客が増えますが、その後は横ばいであることがほとんどです。富士山の観光客数も、20万人から30万人へ、10万人ほど増えてはいますが、それほど急激なものではありません。人数が過剰であるとは言えますが、一人当たり7千円取らないと、観光客は減らないという研究結果もあります。今は、キャリングキャパシティを超えたものをどうコントロールしていくかというような観光地が多いということです。

3. エコツーリズムと持続可能な発展

さあ、これから観光開発をしようという時、私は原則が必要であると思います。カナダのトロントは都市ではありますが、グリーンツーリズムをやっています。トロントでは、トロントを訪れる人に対し、「グリーンツーリズムへの10の途」という方針で全ての観光活動をやっているという認識を持っていただくようにしています。例えば、①みどりを夢みどりを想う：知って行動する。私たちは桜を観ますが、その桜の木の構造や土壌がどうなっているのかという知識を持つこと。多摩川夢の桜街道には「夢」という言葉が入っているので、共通することが多いのではないかと思います。例えば食事をする場合でも、グリーンを考えるということです。やはり何か原則が必要だと考えています。我々は、どんな活動をする場合でも、エコツーリズムという考え方、カナダの場合は10の原則がありますが、指標を開発することも必要かもしれません。大事なのは、地域活性化ですから、住民参加を促進することです。沖縄に旅行に行くと、外資系のホテルに泊ります。ここでお金を使うと、沖縄の外で消費されてしまいます。沖縄の中で活動している人たちの所得の増大に繋がるような活動でなければならないというのも、エコツーリズムの原則になってきます。今後ますますエコツーリズムによる地域活性化の実現がとても重要になります。有り難うございました。

(事務局)

藪田部会長、有り難うございました。せっかくの機会ですので、ご質問のある方は挙手をお願いします。

(藤井様)

世界や日本のお話を聞かせていただきましたが、我々多摩地区については、どうすれば良いのでしょうか。

(藪田部会長)

まず上流・中流・下流で連携を取ることが必要なのですが、観光としては、上流域、中流域、下流域それぞれに特徴があります。私は上流域を調査したことがあるので、上流域のお話をさせていただきます。奥多摩町で泊った民宿に温泉がありました。熱海温泉という名前でした。熱海と言えば伊豆を思い浮かべるので、このネーミングに大変ショックを受けました。観光客にアンケートを取り、「ホテルはどうでしたか」「ホテルの食事はどうでしたか」と聞いたら、「食事が良くない」という回答が多いのです。これは改善すべき点だと思います。観光には色々な主体が関係します。観光客自身がエコである必要がありますが、受け手側がエコであり、持続可能な観光のための努力をすることが重要です。奥多摩で良いと思うのは、料理の問題はありますが、旅館に泊ると、奥多摩の昔話を聞かしてくれるのです。これはとても良いと思います。大多摩観光連盟が、ホームページにお土産をずらっと並べていますが、この先に何か工夫が必要だと思います。エコであることの情報発信の中でひとつ言われているのは、情報化だと思います。外国人も日本の若い方もそうですが、観光情報はパンフレットではなく、ITです。ワンクリックですぐに情報が引き出せるようにする必要があります。私もこの会で色々なアイデアを皆さんと議論していきたいと思います。

(藤井様)

多摩川について、私は、宣伝が足りない、あるいは来てもらう努力をしていないと感じています。大きな原因として、交通機関が十分ではないと思います。人に来てもらえるような交通システムを構築しないといけないと思います。

(藪田部会長)

私もその通りだと思います。

(事務局)

有り難うございました。それでは藪田部会長に今一度拍手をお願いいたします。

4. 経過報告

(事務局)

それでは、経過報告に移ります。今年度の当フォーラムの活動につきましては、お手元の資料の表紙に時系列でお示ししておりますので、ご参照ください。

(3) 多摩川夢の桜街道～桜の札所巡り事業（桜ウォーキング）【資料2】

①4/2：羽村取水堰と玉川上水～美しい多摩川フォーラム、羽村市、福生市、リビング多摩、大谷桜守

②4/7：南浅川桜並木と陵南公園&高尾・多摩森林科学園～美しい多摩川フォーラム、京王電鉄、リビング多摩、大谷桜守

- ・ 【資料2】をご覧ください。今年もリビング多摩様と連携し、くにたち桜守の大谷和彦さんをガイドに迎え、桜のガイド付ウォーキングを4月2日に実施しました。毎年恒例の「駅からハイキング」は、JR東日本様の方針転換により中止となりましたが、当フォーラムでは、羽村市様、福生市様と連携し、「玉川上水・多摩川沿いの満開の桜を巡り、途中で田村酒造場を見学し、地酒の試飲ができる」という人気の桜ウォーキングを継続実施しました。参加された皆さんは“桜”と“お酒”を十分ご堪能されたようです。また、翌週7日の桜ウォーキングについては、今年も多摩森林科学園の吉丸前園長さんのご協力により、事前に桜のミニ講座を実施し、桜の知識や見所について丁寧に解説していただきました。お天気は雨模様でしたが、大変充実したイベントになりました。本件につきまして、サンケイリビング新聞社多摩本部の石川編集長より一言お願いします。

(サンケイリビング新聞社 多摩本部 編集長 石川 様)

今回も2つの桜ウォーキングを実施しました。電話受付で応募者を募りますが、特に羽村のコースは初ということもあり、受付開始の月曜より前に電話をされてくる方が続出し、受付後は50分で定員に達しました。イベント終了後のアンケートの結果、皆さんの関心度が高く、参加された方の満足度も非常に高かったようなので、今後も継続して協力していきたいと思えます。

(5) 東急百貨店「ココエコチャリティー」実施 (5/28～)【資料5】

- ・ 【資料5】をご覧ください。東急百貨店ホームページのトップページに紹介されているとおり、5月28日より、東急百貨店の本店をはじめ10店舗において、ココからはじめる身近なエコ「ココエコ・チャリティー」が開催されており、今年もオリジナル・チャリティーグッズが販売されています。本日、サンプルをお持ちしましたのでどうぞご覧くださいませ。これは、東急百貨店様のCSRの一環として企画されたもので、今年で6回目となります。環境活動に積極的に取り組んでいる団体として「美しい多摩川フォーラム」に売上金の一部を寄付し、多摩川流域周辺的环境保全活動に貢献しようというものです。美しい多摩川フォーラムでは、いただいた寄付金を、「多摩川一斉水質調査」などの活動に役立てております。皆さん、ぜひお早めにお買い求めいただき、フォーラムに還元していただければ幸いです。・・・ということですが、本日は事務局で多少ご用意があり

ますので、1個200円になりますが、よろしくお願ひします。なお、お預かりした金額は、まとめて東急百貨店にお振込みさせていただきますことをご報告させていただきます。

(12) 狛江古代カップ第25回多摩川いかだレース参加 (7/19) 【資料8】

- ・ 【資料8】をご覧ください。今年も「美しい多摩川フォーラム号」として出艇します。今回は第25回記念大会とあって、いかだには、狛江市長をはじめ、世界陸上でも銅メダリストになった千葉真子さん、当フォーラムのダニエル・カール副会長、狛江市職員、フォーラム事務局の5人が乗り込み、第1レースに出艇します。皆さん、ぜひ、会場に足を運んで、応援をよろしくお願ひいたします。

(18) “多摩川酒蔵街道”のPRについて (9/1～) 【資料12】

- ・ 【資料12】をご覧ください。当フォーラムでは、昨年9月に「多摩川酒蔵街道」を公表いたしました。チラシについては、JR東日本八王子支社ご協力のもと、50を超える駅に配置したほか、大多摩観光連盟様が発行しているPR誌「大多摩四季報」にも2ページにわたってご紹介いただき、大いにPRすることができました。その後、11月～12月にかけて、旅行会社がツアー商品を販売し、特に、はとバス様では、延べ8回、約300名が参加され、瞬く間にヒット商品となりました。さらに、今月6日には、JR東日本様が“多摩川酒蔵街道”お座敷列車の旅を催行され、満席の120名が参加し、大いに盛り上がりました。今秋は、チラシをリニューアルし、連携先の皆様のご協力のもと、取り組んで参りますので、よろしくお願ひいたします。本件につきまして、小澤運営委員によれば、社内で試飲ができる「五種飲み比べ」は大好評で、参加されたお客様のうち、数名が、到着した時点で酔いつぶれていたそうです。なお、小澤酒造様では、東北復興支援として、「夢の桜街道」ラベル付きのお酒を限定販売され、売上金の一部が東北・夢の桜街道推進協議会に寄付されましたことをご報告いたします。

(19) 第2回美しい多摩川フォト教室開催 (9/18) 【資料13】

- ・ 今年もサンケイリビング新聞社のご厚意により、地域生活情報誌リビタマに無料掲載でPRしていただくことになりました。大変有り難うございます。経過報告は以上です。よろしくお願ひいたします。

(薮田部会長)

事務局からの経過報告で、他にご質問などございますか。多摩には日本酒もありま

すが、最近若い人の間ではビール党の方もいらっしゃいます。日本酒は伝統があり奥深いのですが、東京は恵比寿の伝統もありますし、日本酒からビールへの発展はないのでしょうか。

(宮坂事務局長)

突然のお話で十分咀嚼できていないのですが、事務局の体力面もありますので、まずは酒蔵をしっかりとやっていきたいと思います。多摩の地ビールもかなりの銘柄があり、酒蔵街道が上手く行けば、周りから地ビールの話も沸々と湧いてくるとと思いますので、それから考えたいと思います。

5. 意見交換（部会長）

(藪田部会長)

はじめに事務局の方から説明してください。

(1) 平成27年度活動計画等について【資料1】

(事務局)

【資料1】の平成27年度事業計画・同予算（案）をご覧ください。まず、収入の部ですが、会費収入は2,100,000円を見込んでおります。青梅信用金庫様より寄付金として8,000,000円、青梅市様より委託金として276,000円、とうきゅう環境財団様より助成金として、多摩の物語について228,000円を予定しております。一方、支出の部ですが、総会等運営費として、3,666,000円、各種活動費として7,714,200円を計上しております。運営費についてですが、平成26年度事務雑費等の中に見込んでいた印刷費を分離し、印刷費等396,000円、事務雑費等200,000円として計上しております。活動費のうち、新規案件として上がっていたシーカヤック体験教室については、インストラクター確保難のため、安全面を考慮し、見送ることといたしました。“酒蔵街道”商標登録申請費については、平成26年度中に追加予算として計上したものの、特許庁の商標登録完了が結果的に4月15日となり、年度をまたぐこととなったため、繰越計上しました。新規事業に当たる「御岳・冬物語」については、事業内容を事務局で検討中です。

なお、東北・夢の桜街道運動として、例年同様、2,000,000円を計上しておりますが、これは東北復興支援事業として、東北・夢の桜街道推進協議会に拠出します。この結果、次期繰越金は1,143,790円となり、合計では、12,523,990円となります。次ページ以降に、平成27年度事業計画の主な実施内容、事業計画の趣旨説明、主な事業活動の予定、会議&シンポジウムの予定があります。後ほどゆっくりとご覧くださいませ。

(薮田部会長)

それでは、皆さん、ご質問やご意見がございましたら、お願いします。シーカヤック体験教室の2万円が削除されていますが、合計額には反映されていないということですか。

(事務局)

合計額には反映されております。2万円を削除し、次期繰越金に加わるということです。

(薮田部会長)

分かりました。他に何かありますでしょうか。

(事務局)

恐縮ですが、事務局からご指名をさせていただきたいと思います。阪急交通社の市川様、多摩川酒蔵街道や今年度の事業について、何かご意見・ご感想がありましたらよろしくお願ひいたします。

(㈱阪急交通社 団体営業部 東京団体支店 営業二課一係 市川 秀夫 様)

私はあきる野生まれで、秋川を身近に感じています。また、日本野鳥の会奥多摩支部に所属しており、野鳥観察で笠取山の水干から大田区の河口を訪れることもあります。今後も、仕事も趣味も絡めていきたいと思いますので、よろしくお願ひします。

(事務局)

有り難うございました。続きまして、近畿日本ツーリストの平沼様、何かご意見・ご感想がありましたらよろしくお願ひいたします。

(近畿日本ツーリスト㈱ 首都圏西団体旅行支店 支店長 平沼 知己 様)

全体的な感想ですが、薮田部会長の講話を聞かせていただき、我々は旅行商品を販売している立場ですが、エコツーリズムという原点に立ち返って観光業を発展させていかなければならないと再認識しました。

(薮田部会長)

酒蔵街道について、参加者や観光客の数はどのくらい推計されますか。

(事務局)

まだ事業ベースでしか分からず、はとバスさんやJRさんでの数字しか把握してい

ませんが、効果で言いますと、JRさんの50を超える駅にパンフレットと大多摩観光連盟の四季報をダブルで設置し、PRしたところ、あっと言う間に無くなったそうです。相当のPR効果はあったと思われます。今年度についても、JRさんと既に調整が終わっており、大多摩観光連盟さんも同様のご協力をいただけるとのことで、9月1日から各駅でPRする予定です。

(薮田部会長)

成功しつつあるということで、これから伝統になっていき、発展性もあると思いますが、この部会は、どこかの時点でこの活動の評価をしなければなりません。各事業者が関わっているということは、それなりのメリットがあり、ビジネスモデルとして成り立っているということだと思いますが、そのことが、地域の人たち、参加した人たちにどういう影響があったか、どこかで評価をしなければなりませんので、この部会で検討していきたいと思います。桜街道もビジネスモデルに繋げていかないと地域活性化にはなりません。先ほど交通手段の話もありましたが、交通手段が不足していると人々は行きづらいです。川崎から奥多摩まで臨時列車が出ているそうですが、そういった仕組みを作って、足の悪い年配の人たちも桜街道にアクセスしやすい、酒蔵街道にアクセスしやすい環境を作る必要があります。

(事務局)

いま交通機関の話が出ましたが、JRとしては、お座敷列車を何本も出す予定でいたらしいのですが、今回使用したお座敷列車は、高崎区にあるひっぱりだこの列車で、1本確保するだけでも大変だったということです。せっかくニーズがあるのに、インフラ面で実現できないこともあるので、効果をみようととしても、複雑な見方をする必要があります。

(藤井様)

多摩地区は交通網が不足しています。西から東に繋がっているだけで、南北は繋がっていません。前回の部会でも話しましたが、リニア中央線が12年後に動きます。橋本を起点に多摩地区は発展すると思います。モノレール延伸も具体化しています。上北台から箱根ヶ崎、多摩センターから町田です。現在、多摩地区から横浜へは遠回りで行きづらいのですが、ある交通雑誌によると、横浜市営地下鉄のあざみ野と小田急線の新百合ヶ丘間の7kmが繋がれば、ストレートで横浜まで行くことができます。これらの計画が順調に進めば、多摩地域に多くの人を訪れるようになると思います。

(薮田部会長)

交通の整備は時間がかかりますが、そういった情報をいち早くキャッチし、魅力あ

る地域づくりが必要になってきます。他にないようでしたら次に進めます。事務局から説明してください。

(2) その他

(事務局)

2点ご報告があります。まず1点目ですが、事務局がある青梅信用金庫では、「多摩川夢の桜街道応援定期預金」という商品を、4月～5月にかけて販売し、募集総額の0.01%である200,000円が、寄付金として6月29日に贈呈されました。

2点目については宮坂からご報告させていただきます。

(宮坂事務局長)

当フォーラムの長期目標として、多摩川レガッタとSL復活運転がパンフレットに刷り込まれていますが、その中で、多摩川レガッタではなく、多摩川カヌーマラソンみたいなことができないかと私の心の中で思っていたところ、約3週間前に、たまたま東京都さんから公募案件のご紹介がありましたので、時間はありませんが、応募するべく準備を進めています。東京都の募集案件は、「地域資源発掘型実証プログラム事業企画案の募集」で、2020年のオリンピックに向けて、インバウンドも含めた観光振興を考える時に、都内で未開発の地域資源を活かしながら、旅行者の誘致に繋がるような事業を募集するとのことです。6月19日に細目の説明会、締め切りが7月7日と、あとわずかとなっています。取り急ぎこちらでまとめた内容は、多摩川の「堰」を活用した「多摩川カヌー駅伝大会」です。堰が中継地点になります。これまでの多摩川の歴史を見ると、室町時代からある堰もあり、ある意味では産業文化でもあります。東京都水道局が管理している堰にスポットを当て、多摩川の災害にも関心を持ちながら、カヌー駅伝をやっていきたいと思います。しかし、カヌー駅伝を自分たちだけで楽しんでいると、観光効果としては拡がりません。そのため、カヌーを操るだけではなく、観る方についても事業として加えます。ただ、観戦だけではお金が落ちないので、奥多摩まで周っていただき、御岳山の宿坊に泊っていただいて、語り部の方に「多摩の物語」を語ってもらい、多摩川酒蔵街道のお酒を飲んでいただき、天気良ければ満天の星空と都心の夜景を見ていただくというアイデアです。これをひとつのパッケージにして提案書を作っております。これを多摩川フォーラムで主催するとなると体力が無いのですが、今回の案件は企画提案型なので、採択されると東京都が事業主体となり、実施者を別途募集します。もし本件が採択されれば、2020年に向けて、まずは多摩川上・中流4つの堰（小作堰・羽村堰・昭和用水堰・日野用水堰）を使い、徐々に中流・下流とカヌー駅伝を拡げていきたいと思っています。本件につきまして、皆様からご意見をお願いします。

(東京都建設局 西多摩建設事務所 所長 村井 良輔 様)

多摩川は、青梅市の万年橋から上流は東京都が管理しており、下流は国が管理しています。東京都としては、もっと川を都民に利用してもらいたいと思っています。堰はカヌーの障害になりますが、そこを逆手に取れば上手くいくのではないかと思います。カヌー人口は少ないですが、オリンピック競技でもありますので、ぜひ進めていただきたいと思います。

((公財) 東京市町村自治調査会 沓川 剛 様)

我々は、62市区町村の共同事業として「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」をやっており、その中で、生物多様性の保全調査・研究をやっておりますが、今回の講話で、エコツーリズムを生物多様性と絡めていく視点を学びました。

(宮坂事務局長)

4つの堰では、生態系の保持空間に指定された場所が3つほどあるので、カヌーを漕ぎながら、生態系保持空間の中から外を見て、自然・環境を理解するというような、エコな競技にしていきたいと考えています。

(富国生命保険相互会社 顧問 大場 豊明 様)

私は大賛成です。繋いでいくという意味では、4つの堰を網羅すると、どれくらいの市町村が入るのでしょうか。

(宮坂事務局長)

全長約15kmで、青梅市、羽村市、福生市、昭島市、八王子市、あきる野市の6市です。

(富国生命保険相互会社 顧問 大場 豊明 様)

今までは、狛江市だけがいかだレースを行っていましたが、今回のカヌー駅伝では6つの市が繋がります。私は「繋ぐ」という言葉が大好きなので、大賛成です。

(宮坂事務局長)

これを実現するには、関係する6市から推薦状をいただく必要があります、根回しをしている最中です。有り難うございました。部会長にマイクをお返しします。

6. 総括・閉会 (部会長)

(薮田部会長)

時間となりました。オーストラリアのブリスベンリバーでは、早朝からカヌーやカ

ヤックが溢れていて、川と親しんでいました。そういった意味では、この仕掛けはとても良いのではないかと思います。カヌー駅伝は初の試みだと思いますが、この「初」が良いのです。今後も、色々なご意見を色々な方からいただきたいと思います。今日は有り難うございました。

以 上